

CIGS International Symposium 「Society5.0 の思想的基盤： イノベーションによる持続可能な開発と温暖化問題の解決」

【日 時】 2019 年 11 月 7 日(木) 14:00～17:00 (13:30 受付開始)

【会 場】 日本工業倶楽部 2 階 大会堂 ([東京都千代田区丸の内 1-4-6](#))

【登 壇 者】 Ted Nordhaus / テッド・ノードハウス

(Founder and Executive Director, The Breakthrough Institute,
キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow)

Hiroyuki Tezuka / 手塚 宏之

(日本経済団体連合会 環境安全委員会 国際環境戦略ワーキンググループ座長)

【モデレーター】 Taishi Sugiyama / 杉山 大志 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)

【言 語】 日本語 / 英語(同時通訳あり)

【定 員】 200 名

【主 催】 一般財団法人 キャノングローバル戦略研究所

【講演概要】

いま日本では、地球温暖化対策に関する「長期戦略」が政府で検討されており、そこでは、イノベーションを通じて地球温暖化問題を解決するとしている。また政府と経団連が提唱している Society5.0 でも、技術によって温暖化問題の解決および持続可能な開発(SDGs)の達成を図るとしている。何れも優れた取り組みである所、共通の思想的基盤を掘り下げて考えたい。

本シンポジウムでは、米国ブレークスルー研究所 Ted Nordhaus 所長を迎え、同所が基本思想として 2014 年に纏めた「現代的環境主義宣言(エコモダニスト・マニフェスト)」に学ぶ。(邦訳は https://www.canon-igs.org/column/energy/20190606_5811.html を参照)。これは、「技術こそが地球環境問題を解決する」というビジョンを明確に示している:

「農業、エネルギー供給、林業、居住等の、人間の多様な活動をより集中的にすることによって、より土地の利用を少なくし、自然界への介入を小さく留めることは、人間の発展を環境影響から分離するための鍵である。そのような変化を社会経済的・技術的に起こすことが経済発展と環境保護の両立の核心であり、人々は気候変動を軽減し、自然を保護して、世界的な貧困を削減することができる。・・・我々は、自分自身を、現実的環境主義者であり、現代的環境主義者であると呼ぶ。我々は、人間が、その並みはずれた能力によって、良き人類世を創っていく、というビジョンを共有している」。

このように日米で同時に発展している類似の活動について、日本での実践的取組みと、米国でのビジョナリーな思想運動の間での対話を図る。これにより日本の活動は確固とした思想基盤に基づくようになり、また対外的な説明もうまくできるようになると期待したい。米国発の思想についてはその実践の場を得ることで思想の深化を図ることが期待できる。

【プログラム】

14:00-14:10	Opening remark Toshihiko Fukui, President, CIGS
14:10-14:20	Introduction Taishi Sugiyama, Research Director, CIGS
14:20-14:50	Society 5.0 for SDGs: Actions by Keidanren 日本の取り組み:経団連「Society5.0 for SDGs」について Hiroyuki Tezuka, KEIDANREN (Japan Business Federation)
14:50-15:50	Ecomodernism Manifesto エコモダニズムとは何か Ted Nordhaus, Founder and Executive Director, The Breakthrough Institute / International Research Fellow, CIGS
15:50-16:00	Short Break
16:00-17:00	Discussions Moderator : Taishi Sugiyama Panelist : Ted Nordhaus, Hiroyuki Tezuka,

【発表者プロフィール】

Ted Nordhaus (テッド・ノードハウス) : Founder and Executive Director, The Breakthrough Institute

Ted Nordhaus is a leading global thinker on energy, environment, climate, human development, and politics. He is the founder and executive director of the Breakthrough Institute and a co-author of An Ecomodernist Manifesto.

Over the last decade, he has helped lead a paradigm shift in climate, energy, and environmental policy. He was among the first to emphasize the imperative to "make clean energy cheap" in The Harvard Law and Policy Review, explained why efforts to establish legally binding international limits on greenhouse gas emissions would fail in The Washington Post and Democracy Journal, made the case for nuclear energy as a critical global warming solution in The Wall Street Journal, has written on the limits to energy efficiency and the need to prepare for climate change in The New York Times, and has argued for the importance of intensifying agricultural production in order to spare land for forests and biodiversity in Scientific American and The Guardian.

His 2007 book Break Through, co-authored with Michael Shellenberger, was called "prescient" by Time and "the best thing to happen to environmentalism since Rachel Carson's Silent Spring" by Wired. (An excerpt in The New Republic can be read here.) Their 2004 essay, "The Death of Environmentalism," was featured on the front page of the Sunday New York Times, sparked a national debate, and inspired a generation of young environmentalists.

Over the years, Nordhaus been profiled in The New York Times, Wired, the San Francisco Chronicle, the National Review, The New Republic, and on NPR. In 2007, he received the Green Book Award and Time magazine's 2008 "Heroes of the Environment" award.

Nordhaus is executive editor of the Breakthrough Journal, which The New Republic called "among the most

complete efforts to provide a fresh answer" to the question of how to modernize liberal thought, and the National Review called "The most promising effort at self-criticism by our liberal cousins in a long time."

Hiroyuki Tezuka (手塚 宏之): 日本経済団体連合会 環境安全委員会 国際環境戦略ワーキンググループ座長、JFE スチール(株) 専門主監(役員待遇)兼 技術企画部地球環境グループリーダー

1958 年生まれ。東京大学工学部物理工学科卒。MIT スローン経営大学院経営学修士(MBA)。日本鋼管(現 JFE スチール)入社後、製鉄所の制御システム開発、新素材事業の立ち上げなどに従事。総合企画部を経てワシントン事務所長、米ナショナルスチール社の経営管理部長として 8 年にわたり米国勤務。帰国後は経営企画部で国際事業戦略に従事した後、07 年から気候変動問題を担当し、地球温暖化対策、環境エネルギー政策分野で内外の活動に従事。経団連安全環境委員会国際環境戦略 WG 座長、日本鉄鋼連盟エネルギー技術委員長、世界鉄鋼協会(Worldsteel)環境委員長(19 年 6 月まで)、国連「緑の気候基金(GCF)」民間諮問委員、環境省中央環境審議会長期低炭素ビジョン小委員会委員、TCFD コンソーシアム企画委員会委員、同情報開示 WG 座長等を務めている。主な論文に「2 国間クレジット制度の課題と対応の方向」(2015 年 3 月、東京大学公共政策大学院 ディスカッションペーパー GraSPP-DP-J-15-001)、「The Hartwell Paper」(LSE/Oxford Univ. 2009 年)、「The Vital Spark」(LSE 2013 年)等がある。

Taishi Sugiyama (杉山 大志): キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)において、統括執筆者、主執筆者等として、2007 年および 2014 年の報告書執筆にあたった。現在、第 6 次評価報告書統括執筆責任を務める(担当はイノベーションとテクノロジー)。経済産業省産業構造審議会産業技術環境分科会地球環境小委員会委員、経済産業省長期地球温暖化対策プラットフォーム国内投資拡大タスクフォース委員等を歴任。著書に『地球温暖化問題の探究ーリスクを見極め、イノベーションで解決するー』(2018 年、デジタルパブリッシングサービス)、『地球温暖化とのつきあいかた』(2014 年、ウェッジ社)等多数。

https://www.canon-igs.org/fellows/taishi_sugiyama.html